

【注意】発行当時の原稿をそのまま掲載しております。農薬について記載のある場合は、最新の農薬登録内容を確認し、それに基づいて農薬を使用して下さい。また、成果情報によっては、その後変更・廃止されたものがありますのでご注意下さい。

[成果情報名] 飼料用トウモロコシ（子実利用型）極早生品種「KD420」の品種特性

[要 約] 「KD420」は、折損が少なく、子実乾物収量が良好である。

[部 署] 山形県農業総合研究センター畜産研究所・草地環境部

[連 絡 先] TEL 0233-23-8817

[成果区分] 普

[キーワード] 飼料用トウモロコシ、子実利用型、極早生品種、耐折損、子実乾物収量

[背景・ねらい]

飼料用トウモロコシのうち子実利用型に適する品種について、極早生品種の9品種を用い、本県の気象条件下における適応性を調査・検討し、優良な品種の選定に資する。

[成果の内容・特徴]

飼料用トウモロコシ（子実利用型）極早生品種「KD420」の特性は、次のとおりである。

- 1 10a 当たりの子実乾物収量は1,145kg（3年間平均）と良好である（表2）。
- 2 着雌穂高が低く、折損が少ない（表1）。
- 3 子実水分率は、黄熟期の21日後において24.9%（3年間平均）であった（表2）。
- 4 播種から黄熟期までの日数は、108日（3年間平均）であった。（表2）。

[成果の活用面・留意点]

- 1 本情報は、農業総合研究センター畜産研究所(新庄市)において、山形県飼料作物栽培指針に準じ以下の概要で栽培した。
 - ・堆肥量：牛ふん堆肥=5t/10a
 - ・基肥量：粒状苦土石灰 170kg/10a、粒状ようりん 90kg/10a
化成肥料（17-17-17）N-P₂O₅-K₂O：各 20kg/10a
 - ・栽植密度=7,500本/10a
- 2 商品名は「ゴールドデント KD420」、相対熟度（黄熟期）は90である。
- 3 子実水分率の低下は気象条件による影響が大きく、子実水分率30%以下になるまでの期間が年次により変動することに留意する。

